

【出張版】知って得する

ケンポくんのトクトク Information

「ポリファーマシー(多剤併用)」に注意しよう!

昨今、複数の薬を服用することによって発生する「ポリファーマシー」が問題となっています。



「ポリファーマシー」とは何か? 何が危険なのか? 処方された薬を効果的かつ安全に活用するためにも、薬の服用に関する正しい知識を身に付け、「ポリファーマシー」への対策をしましょう!

Question.1

「ポリファーマシー」ってなに?

ポリファーマシーとは、「複数」を意味する「poly」と「調剤(薬局)」を意味する「pharmacy」からなる、「害のある多剤併用」を意味する言葉です。単に「服用する薬の数が多い」ということではなく、必要以上の薬や不要な薬が処方されていることによるリスク増加や、誤った服薬方法等、さまざまな問題につながる状態を指します。



Question.2

「ポリファーマシー」の問題点は?



「ポリファーマシー」の問題点は、「有害」である点です。

薬物による有害な事象には、軽いめまいやふらつきから、肝機能障害や低血糖を引き起こすもの、果ては死にいたるものまで多岐にわたります。

また、多くの薬が処方されるということは、医療費の増加にもつながります。医療費のうち大きな割合を占めている調剤医療費は、「ポリファーマシー」と密接な関係があると考えられています。

Question.3

「ポリファーマシー」の対策法は?

「おくすり手帳」を活用する!

誰でも手軽にできる「ポリファーマシー」の対策として、「Pep Up」アプリの「おくすり手帳」の活用がオススメです!

調剤レセプトのデータをもとに、処方された調剤情報が定期的に自動で反映(※)されるため、他の医療機関で処方された医薬品を確認し、多剤併用による「重複投与」や「飲み合わせの副作用」等を未然に防ぐことができます。

さらに、おくすり手帳の提示により「服薬管理指導料」が140円安くなり、3割負担の人であれば自己負担額が40円安くなるため、医療費の節約に直結します。

※院内処方、歯科等の処方の際は、調剤履歴のQRコードを読み取ることで登録できますが、一部対応していない医療機関もございます。

服用状況等について記録しておく

「薬を飲み忘れてしまった」、「薬を服用した後に体調が悪くなった」等は重要な情報となります。

「Pep Up」の「おくすり手帳」の「服薬メモ」等に記録しておくことで、万が一の際に後から見返すことができ、ポリファーマシーの回避につながることもあります。



PepUp.

←iPhoneをご利用の方
Androidをご利用の方→



重複受診を控える

同じ病気で複数の医療機関を受診すると、受診にかかる医療費も処方薬にかかる医療費も余分にかかります。

何かあればかかりつけ医に相談するようにし、処方薬をしっかり把握しましょう。

かかりつけ薬局(薬剤師)をもつ

かかりつけ医同様、かかりつけの薬剤師を身近に1人もつことで、処方薬や、体質や体調変化等をまとめて把握してもらうことができます。

また、薬剤師への相談は処方箋を持参しない場合でも可能です。家に余っている薬がたくさんある、薬の整理や管理で困っている等の場合は、自身で判断せず薬剤師のサポートを受けるようにしましょう。